審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	第9回山口市総合計画策定協議会
開催日時	令和5年1月26日（木曜日）10：00～11：15
開催場所	かめ福オンプレイス　2階　ロイヤルホール東
公開・部分公開の区分	公開
出席者	進士正人委員、今村主税委員、橘康彦委員、佐藤真澄委員、桑原智恵委員、坂本京子委員、鈴木春菜委員、于佳男委員、永久弘之委員、戸田岸巌委員、重村奈津枝委員、小野哲委員、安光忠彦委員、田中貴光委員、手嶋郁夫委員
欠席者	藤井智佳子委員、小山文彦委員、白石レイ委員、粉川妙委員、郡さやか委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	1　開会 2　会長挨拶 3　議事 （１）第８回山口市総合計画策定協議会以降の状況 （２）今後の予定 （３）第二次山口市総合計画　後期基本計画（案）について （４）答申案について （５）意見交換 4　今後の予定（答申式について） 5　閉会
内容	次第に基づき、以下のとおり進められた。 <u>1　開会</u> 【事務局】 （資料の確認、欠席委員についてのお知らせを行った。） <u>2　会長挨拶</u> 【会長】 　年も改まりましたが、委員の皆様方には、第1回策定協議会から、大変お忙しい中、お集まりいただき、様々な御意見等賜りまして本当にありがとうございます。この協議会も今回が最後になりますが、本日もぜひ、しっかり議論いただき、いい答申として深化させていきたいと思っております。と言いながらも、おそらく皆様方もまだ言い足りないと感じている部分があるのではないかと思いますので、また本協議会の後に、意見書も出していただきながら、ぜひいいものを作っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。 　山口市では、10年に1回の寒波だそうです。積雪13cmというのは、歴代2番か3番になるそうです。このような中、これだけの先生方に集まっていただきましたので、ぜひ今日は、熱い議論をお願いしたいと思います。よろしくどうぞお願いいたします。 　それでは、進めさせていただきます。まず、議事に入ります前に、皆様にお願いがご

ざいます。会議録を作成いたしますので、発言内容は録音しております。発言の際にはマイクを準備しますので、マイクをお使いいただいて、発言をよろしくお願いいたします。また議事運営に関しましては、御協力よろしくお願いいたします。

3　議事

【会長】

それでは、次第に従いまして、3番目の「議事」に入りたいと思います。

まず、議事(1)から(3)について、それぞれ事務局から説明をいただいて、そこでいったん議論をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

(1)第8回山口市総合計画策定協議会以降の状況

～　(3)第二次山口市総合計画　後期基本計画(案)について

【事務局】

(資料1 「第9回山口市総合計画策定協議会　説明資料」、

資料2 「第二次山口市総合計画後期基本計画(案)」について説明を行う。)

【会長】

ありがとうございました。全体の説明をいただいたところでございます。ここまでの説明の中で、今までの我々の議論と整合しているか、質問やコメントなどあれば、ぜひいただきたいと思います。いきなり意見を言われてもなかなか言いづらいかもしれませんが、ここはちょっとこう書いたほうがいいんじゃないか、というようなコメント等あればお願いします。

【A委員】

意見ではないのですけれど、ちょっと間違いかなと思ったのですが、23ページの図、イラストになってとても分かりやすいのですが、DXとHXの説明が逆ではないでしょうか。

【事務局】

御指摘のとおりです。

【会長】

はい、誤りですね。修正をお願いします。(ウェブサイト掲載資料は修正済み。)

他によろしいでしょうか。どうぞお願いします。

【B委員】

私も、文字の誤りかと思うところで、35ページで、個性と安心の21地域づくりの、6ポツ目で、「高齢者・障がい者・外国人等の避難行動要支援者等」とありますけれど、

	「避難行動要支援者」というのは、災害時に避難をすることが出来ない人のことを言っていて、その前に、「要配慮者」というのがいます。要配慮者というのは、外国人の方などを指していて、そういう要配慮者の中でも、避難をするときに人の手が必要な車椅子の方とか寝たきりの方とかを避難行動要支援者と言って、今、市が避難者名簿を作ろうとされていると思います。なので、ここの表現はどうかなと。外国人の方は配慮があれば、自力で避難することはできると思いますので。言葉の表現だけですが、気になりました。 【会長】 　他にいかがでしょうか。気になるところ、ここはこう変えたほうがいいというような御意見等いただけると、事務局としてはありがたいなと思いますが。 　それでは、私から。30 ページが今回の基本計画の中で作ってくる重点プロジェクトです、という説明で進められまして、議論の中では、やはり、子ども・子育ての話と、若者活躍と雇用創出の話、人生100年時代で元気活躍、21地域づくりと農山村活性化、元気な県都づくり、持続可能な未来都市づくり。ありがたい重要なテーマだと思うのですが、「元気な県都づくり」という言葉を使うのですが、資料をめくっていただくと、「学都山口」という言葉も出てきます。例えば、36ページは「県都づくり」という言葉を使いながら、38ページでは、ヒューマントランスフォーメーションをすることで「学都山口」のまちづくり連携という言葉も出てくるので、どちらかに揃えた方がよいのかな、使い分けの理由はないだろうと思っています。であれば、「学都山口」という言葉の方が、今の山口市の進める方向に近いのではないかと思うので、少し御検討いただければどうかなと思ったところです。 　他に何か御意見等ございますでしょうか。ぜひここは思いがあれば、いただけると良いと思いますが。 【C 委員】 　今、会長から御指摘があったところで、気になるというか、市の方向性として、「学都山口」という言葉を使うと、どちらかというと若者を中心としたまちづくりということになるのかなと思うんですけども、一方で、市の状況としては、高齢化がどんどん進んでいて、そういった高齢者に配慮するようなまちづくりというのも重要なところかなと思うのです。その辺りの言葉の使い分けと言いますか、少し整理が必要なのかなと感じました。すみません、感想です。 【会長】 　ありがとうございます。これもすごく大事な点ですが、僕が心配したのは、せっかく学生はこれだけいるのに、子育て支援とか、学生よりももっと上の世代の人たちを支援するのが市の方向性に見えてしまうので、せっかく若い人がたくさんいるまちだから、若い人も支援してほしいと思う、という意味で「学都」という言葉を使ってほしいなと思っ

	たのですが、確かにおっしゃるとおりで、御指摘感謝します。私がいろいろな資料を見ている中で、宇部市と山口市の15歳から24歳の人口と、県内の山口学芸大学、山口県立大学、山口大学の学生数とを比較しますと、まず、3つの大学の学生数が約1万人なのですけれど、2つの市の15歳から24歳の人口が約2万人ですから、半分は学生であるということを考えると、「学都」というのが人口の中では大事なキーワードかなと思って、そういうことをずっと言っています。 　ほかに何かございませんか。 【D 委員】 　10ページについて、人口(定住人口)ということで御案内があったと思います。最近、岸田首相の施策方針演説が報道されておりますが、異次元の少子化対策というのを、テレビで一生懸命放送しています。今後5年間の計画でございます、1番下の0歳から14歳の比率が、当初の 5 年前と比較すると、下がっていると思います。前回の資料と比較ということで、大変難しい問題なのでしょうけれど、子育てがしやすい、子育てをしようという雰囲気づくり、そういったものを率先して山口市独自の方法で、山口市は子育てしやすいまちなんですよということをしていかないと、これから国がやろうとする施策に乗っていけない気がしています。全国的には、出生数が80万人を割り込んで、過去最低になったというような報道も出ておりますので、これから将来を担う子どもをいかにまち全体で見守っていくか、そういった体制づくりをしていかないと、出産を考えた上で不安材料になるのではと感じたところです。 【会長】 　はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。 【E 委員】 　膨大な意見の取りまとめと資料への反映、本当にありがとうございます。いろいろと盛り込んでいただいて、大変感謝しております。 　私から二点ほどコメントさせていただきたいと思います。まず、一点目、小さいことなのですけれど、35ページの「2　農山村エリアの地域活性化」というところの一番下の、「鉄道駅や駅周辺の環境整備」というのを記載いただいているのですけれど、農山村エリアは必ずしも鉄道駅がある場所ばかりではありません。「鉄道駅など交通結節点の」としていただくと、バス停や道の駅などの環境整備にも着目できるのかなと思いましたので、御検討いただければと思います。 　もう一点なのですけれど、計画としてこれを見たときに、実施体制とか、今後のこの先の計画につながっていくという実行体制、それからチェック体制と、その次の総合計画につながっていくという流れが見えないなと感じています。もちろん実行計画ではありませんので、細かな部署等を記載いただく必要も全くないんですけれど、これだけの壮大な計画だと、どうしても市だけで実行するというのは難しいと思いますので、市民

	の皆さんにも参画していただく、そういうビジョンですとか、いろいろな関係諸機関と連携していくというような体制が少し見えた方がいいのではないかなと感じました。また、それにつながるところなのですけれど、行間など見にくいところがありますので、市民の皆さんに読みやすい内容や、更にコンパクトなもので周知が進むような体制を検討していただきたいなと思います。 　また、これは後期基本計画ですが、今度、更に改訂する時は、10年間を考えた計画を立てると思いますので、その時に慌てて構想を考えなくてもいいように、ビジョンをみんなでじっくり練っていきたいというようなところが見えると、よりいいかなと感じました。以上です。 【会長】 　はい。ありがとうございます。他によろしいでしょうか。 【F 委員】 　取りまとめお疲れ様です。デジタル分野のところです。いろいろと総合計画の中に、課題解決にデジタル技術を活用してというところが重要というところ、散りばめていただいているのかなと思います。ありがとうございます。 　一点、どう盛り込むかというところがあるんですけれども、デジタル技術が、今後いろんな分野で必要になってくるという中で、33ページの重点プロジェクト2「未来を担う人材育成」の話が出てきているかと思います。書き方というか、整理の仕方が難しいのですけれど、デジタルの関連で、6番のポツ「関係機関との連携のもとでの産業人材の育成」ということで、「デジタル分野の産業人材の育成」というところは、記載いただいているのですけど、そこのイメージとしては、おそらくICT分野の企業、産業分野ということかと思います。一方で、行政の方だとか企業の方だとか、今後、DXを進めていくためには、デジタル人材の底上げみたいなところがどうしても必要だなと思っていて、市としてどう取り組むかということは難しい点ではあるのですけれど、そういう今後、未来を担う人材育成という立場で記載いただくときに、そういう基本的なスキルというか、観点として、デジタル人材というものを育成するというより、それを当たり前のように身に付けていただけるような取組が何か表現ができればいいかなと思います。以上です。 【会長】 　ありがとうございます。他によろしいでしょうか。 【B 委員】 　前回もちょっと申し上げたのですが、5つの施策の中には、「安全・安心」というところに防災というのが入っていて、そして、図でも、52ページで参考資料も作っていただいたのですが、プロジェクトになると、35ページの上から5つ目の一文しか、後にも先にも出てこないのですよね。それは、防災とか地域防災に関わる人間が見たときにちょっと

	寂しいかなと思うのです。ただ、じゃあプロジェクトのどこに入れるのかというとすごく難しいとは思います。6つのプロジェクトの中で、どこか項目を立てるとすると難しいだろうなというのは読んでいて感じました。せめて、この35ページの1番上の、枠でくくってあるところ、そこに一言、防災の言葉を入れていただくのはどうでしょうか。今はそこにも出てきてないんですね。ここでは、日常の安心とか安全のことが言ってあって、災害は非日常なので、そういう意味合いの言葉をちょっと入れていただくとか。今回も大雪が降ってやはり災害にとても弱い都市だというのを、皆さん感じられたと思うんですよね。なので、なかなか難しいだろうなと思うのですけれど、せめて上の枠の中に入れていただければと思いました。 【会長】 　ありがとうございます。それでは、どうぞ。 【G 委員】 　高齢者は100年、障がい者は社会参加の促進ということで取り込んでいただき、ありがとうございました。 　二点あるのですが、まず、先ほど委員さんがおっしゃいましたが、やはり少子化対策ですね。子どもが増えると、高齢化率も下がりますし、社会保障、子どもを産み育てるというところを、もう少し、いろんなところに盛り込んであったらいいかなと思いました。国も異次元の少子化対策と言っていますので、今盛り込んでおかないと、5年間、何も出来ないのかという話になってしまいますので、やはり関連で盛り込んでいただけると幸いです。 　それと、二点目に、38ページのDXなのですけれども、当然、前向きなのは分かります。例えば、マイナンバーカードにおきましては、どうすれば申請ができるのかという、どうしても、行き遅れている高齢者・障がい者もいらっしゃいますので、こうした方に対する支援ですね。個人情報を用いますので、銀行、携帯電話会社など、窓口がバラバラなのですが、そういう相談窓口みたいなものがあればと思います。「マイナンバーカードが保険証になるというのは本当でしょうか？」という話も聞きます。マイナンバーカードが保険証になると、カードがなければ病院にかかれないので、何とかしたいという話を日々聞いています。国の施策ですので、まだ、市町まで対応がしっかり降りてきていないのは当然分かっているのですけれども、乗り遅れないような、つなぎも必要かと思いますので、そういったところも少し何か、表現を加えていただけるといいのではないかと思います。以上です。 【会長】 　ありがとうございます。それでは、お願いします。

【H 委員】

先ほど委員がおっしゃった、23ページの図の表記の違いのところで、トランスフォーメーションの1番は「人材育成」で、2番が「デジタル」で、3番が「グリーン」ということになっていますけれど、おそらくこれを作った方が、「人材育成」を中心に持ってきたいと思われてここに持ってきたんだろうな、そして、それを支えるものとして、DXとGXがあるというようなことと、順番が入れ替わってしまったのではないかと思います。概念図というものは、やはりこれだけで捉えるということもありますので、「人材育成」をセンターに持ってくるというのはとても良いことだと思うのですが、やはり、私も先ほどの「学都山口」という言葉の件もありますけれど、リカレント教育も含めた、この学びのまち山口ということだと思います。ただ、これを「学都」としてしまうと、どうしても大学というようなところに概念がいってしまうんですけれど、人生100年という中での学びは、私たちもこれから先、委員として、こういった機会に関わらせていただいた上で、前回、副会長がおっしゃったように、これから、私たち一人一人が、どうやって関わっていくのか、意識が高くなった1市民として、どうやって明日から過ごしていくかというようなことが1番大事だなと思ったりするのですけれど。この概念図については、ぜひ、中心に「人材育成」を据えていただいて、HXあってのDXとGX、あるいは、DXやGXが支えられているというような、どういう表現がいいのか、ちょっと難しいのですが、そういった表現ができればと思います。

そして、先ほど、委員がおっしゃったことですけれど、やはり、これから実践をどうするのかというところが1番気になるところです。机上の空論で絶対に終わらせたくないと思っております。私も、いろいろなことに関わらせていただいて、その後、じゃあ、私はこれからどうするのかと思うことがあるのですが、今回、地球上で起きたこのコロナというものが、私たちに日常の大切さということを教えてくれたと思うのです。ですから、先ほどの防災のことでもそうなのですが、例えば防災訓練のことについて、地域交流センターを中心として、学校も巻き込んだような実践、楽しさもあり、その後の意識に残るような取組は出来ないかという話に持っていったのですが、市民の日常を潤わせる、あるいは、体験するという実践を、必ずできるような仕組みを作っていただいて、この学びというところの中に、例えばそういった体験みたいなものも含まれると思うので、そうしたところを、もっと厚く太く強くできるような方法を考えていきたいと思いますし、私自身もひとりの市民として意識高く進んでいきたいと思っているところです。そういった仲間を増やすこともチャレンジできたらと思います。

【会長】

ありがとうございます。

【A 委員】

私も、23ページの図を何度も見ていて気になったのですが、上が、左から右に流れていて、他のところが、真ん中からかなと思いながら、次の、26ページも同じ順ですよ

	ね。ですが、27ページを見ると、HX・人材育成の話の上にDXとGXが乗っていて、文章になると、また、人材育成のところからスタートしているので、例えばですが、31ページのところに、ヒューマントランスフォーメーションの説明が書いてあるところの中とか、どこか一カ所に、人材育成が中心になって、その上に他の二つがあるというようなことがあかると分かりやすいのかなと思います。 　あとを見ると全て並列になっていて、この図だけが上に上がっていく、並列だったら左から順の方がいいとも思います。すごく迷われたのだろうなと思いながら、少し気になりました。 【会長】 　ありがとうございます。鋭い御指摘をいただきました。こうした意見が出ていますので、最終答申に向けては修正をするというかたちを考えていただけたらと思います。 　事務局としては、やはりデジタルと脱炭素というものをうまく使いながらも、ヒューマントランスフォーメーションというものが非常に重要だと、我々自体も変わらなければと。今日のお話の中にもあったように、計画を作るだけではなくて、計画を使ってどうするのかということが大事で、そのためには市民も考えることを変えないといけないってこともあるのだろうということ考えていらっしゃるんだろうと思うので、そういうところを、ぜひよろしくお願いしたいと思います。 【事務局】 　23ページのところですが、なかなか表現が上手くいかなかったので、現時点でこのようなかたちにさせていただいておりますが、皆様のおっしゃられるところと考えは同じでございますので、上手く表現できるよう修正してまいりたいと思います。 【会長】 　それでは、意見が大体出尽くしたようなので、それをまとめたかたちの答申案というところに移りたいと思います。答申案を聞いていただいて、また御意見等賜りたいと思います。 　では、事務局の方から、答申案の説明をよろしくお願いします。 <u>(4)答申案について</u> 【事務局】 (資料3 「答申案」について説明を行う。) 【会長】 　ありがとうございます。この案をもって、答申としたいというところでございます。 　それでは議事5、意見交換にまいりたいと思います。先ほど御説明いただきました後期基本計画の案と、答申案に関しましても、御意見御質問等がありますでしょうか。こ

れまで御発言のない委員の皆様方も、ぜひ御発言をよろしくお願いしたいと思います。

【I 委員】
　答申案の中にありますように、山口市の発展のために、人への投資、それからデジタル技術の活用、脱炭素化といった変革が必要であると考えております。この総合計画の中にも、そういった視点から様々な施策が講じられようとしております。こうした方向性というのは、国、県とも一致しておりますので、今後、国や県が新たな施策なども用意するはずですので、こういったものもしっかり活用しながら進めていただけたらと思います。
　それから、むすびのところにありますように、決して計画倒れにならないように、この総合計画にぶら下がっている各個別計画やプロジェクト等に基づいて、しっかりと具現化を図っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【会長】
　ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【C 委員】
　概要版を見せていただきながら気になっているのが、これを山口市民が読んで、5年後にどういう社会が実現していくのか、自分たちの生活がどのようになっていくのかか、そういうのがなかなか見えにくいなと思います。何か少し具体的なまちの姿であったりとか、子育てがこう良くなってくるとか、そういった具体的な絵がどこかにあった方がいいのかなと思いました。すごくいろんなことが盛り込まれていて、これによって山口がどんどん発展していくというのは、とてもすばらしいことかなと思うのですけれど、自分たちの生活が一体どのように変わるのか、この3つのトランスフォーメーションが掲げられて、大きく変革するんだということが前面に打ち出されてるかなと思うんですけども、その変革したときの、自分たちの生活がどのように良くなっているのか、そういうところが具体的に見える、絵があると良いのかなと思いました。

【会長】
　ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【J 委員】
　基本構想の部分から、「協働のまちづくり」と、「広域県央中核都市づくり」と、この2本柱で、山口市が今後、進もうとしているのですけれど、山口市、県都というキャッチフレーズもある、分散型都市構造の中で、やはり人口が、特に若者が転出しているという現状の中、ダム機能を担うのは、やはり県都山口と思っています。もちろんこの計画の中のあちらこちらに、そのための施策を盛り込んであるわけなんですけれども、若者の働く場を求心にして、これからの山口市のまちづくりを進めていっていただきたいなと

	思っているところでございます。以上です。 【会長】 　我々、大学のメンバーとしては、是非、それもやりたいと思ってるところでございまして、何とか、学生が市内に就職する場所をつくりたいというのは、心から思ってるところでございますので、よろしくお願いしたいなと思っているところです。 　ほかに御意見等ございませんか。いかがでしょうか。 【A 委員】 　小さなところで恐縮なのですが、やはりこういう文章は、すごく分かりにくく、長く長くなってしまうというところがあると思うのですけれど、右側のページの、(2)の3段落目の、「こうした中で」というところが、どこが主語でどこが述語なのだろうと非常に分かりにくいと思っていました。ちょっと思ったのが、「デジタル技術を活用し、」というのが手段ですよね。「心豊かな市民の暮らしを第一に考えたデジタル化を進めていく」とあって、デジタル技術を活用し、デジタル化を進めていくって何か、かぶっていると思います。ここの文章が読んでいて、結局何が言いたいのか分かりにくいかなと思います。もう少しすっきりするかなと思いました。 【会長】 　すばらしい意見、ありがとうございます。僕は今、この話をずっと聞いていて、これをパワーポイントにしたらどうなるのだろう、グラフィックレコーディングにしたら、どういうイラストになるのだろうかと。それは、先ほどお話があったように、後期基本計画のイメージを見せるのに、グラフィックレコーディングをするとこんな絵になるのだなあというのがあるとですね、分かりやすいのかな。これもまあ、今、最終的な計画の1番前に、こういう絵が一つあってもいいのかなという気はします。ちょっとその辺もちょっとあわせて御検討いただければと思いますが、ほかにいかがでしょうか。どうぞお願いします。 【F 委員】 　はい。すいません。今の話。同じようなことを感じまして、「デジタル化を進めていただく」と言ってしまうと、「デジタル化」はやはりどうしても手段なので、「デジタル技術を活用し」ということは言っていただいていますので、例えば、ちょっと言い方は難しいのですけれど、「市民の暮らしを第一に考えた取組」や「改革」なり、「市民の生活を豊かにする取組を進めていく」みたいな言い方の方が入りやすいのかなと思いました。 　また、DXは、みなさんご存じのとおり、デジタル技術を活用して変革していくという意味合いなので、どうしても「デジタル化を進める」という話になると、前段の話になってしまので、ここはデジタル化を強調しなくてもよろしいのかなと思いました。補足と言いますか、思ったことを発言させていただきました。以上です。

	【会長】 　ありがとうございます。いかがですか。観光分野の御意見、よろしいですか。 【K委員】 　本当にすばらしい計画をつくっていただいて、ありがとうございます。 　交流人口について、これから600万人を目指されると打ち出されましたので、本当に観光の最前線で働く我々は頑張ってまいりたいと思います。ありがとうございます。 　骨組みが見えてきて、これからの肉づくりをしていく必要があるので、持ち帰らせていただいて、そして、観光の最前線で働く皆さんと相談しながら、進めてまいりたいと思います。お願いします。 【会長】 　ありがとうございます。いかがでしょうか。ほかに御意見等ございませんか。 【L 委員】 　最初の10年の基本構想部分の「豊かな暮らし交流と創造のまち山口」というのは、「ずっと元気な山口」に変わるという意味なのでしょうか。それとも、ベースとして将来都市像があって、後期基本計画のタイトルとして「ずっと元気な山口」という考え方があるという理解でよろしいでしょうか。後者ですね。分かりました。 　それと、やはり、市民の方は、これだけの分量は読めないと思いますし、頭に入ってこないと思います。これから作られるとは思いますが、概要版というか、みんなが見てわかるような、他の委員さんもおっしゃられていましたが、「将来的にはこうなるんだよ」、「だからこの5年間はこうするんだよ」というようなことが分かるパンフレットのようなものができると良いのではないかと思いました。 【会長】 　はい。ありがとうございます。それでは、お願いします。 【M 委員】 　コメントというかたちになりますけれども、人口減少が進む中、定住人口を増やす、そして、交流人口を増やすということで、下方修正をされないというところに、山口市さんの意気込みがあらわれているのかなと思っております。 　私どもといたしましては、人口の減少がすなわち収入の減少ということで、以前、話題提供をさせていただきましたが、市場を守るということで、この計画の中にも、起業、事業承継ということで、組み入れていただいております。また、前回の策定協議会において指摘させていただいた、事業者にとって、いいものをつくったら売れなければということで、「販路開拓への支援」という言葉を入れていただきましたので、商工業という立場としては、ありがたく思っているところでございます。

	また、市民向けに、見せ方ということも大事になってくるかと思いますので、その辺も工夫をお願い出来たらなと思います。以上です。 【会長】 ありがとうございます。それでは、最後にお願いします。 【N 委員】 はい。33ページに、林業の関係を取り上げていただいております。「林業経営の効率化」とございます。その中で、やはり私ども林業をやる上で、やはり今、苦労しているのが、その下に書いてある「森林境界明確化」です。その明確化を進めていただいて、ぜひ、地籍調査につなげてほしいというのが、私からの一つのお願いでございます。この森林環境譲与税に対する関係とか、計画やっていく上においてですね、地籍が分からない、山の境界が分からないということで、相談へ来られるのです。ぜひ、境界明確化を進めた上で、地籍調査へつなげてほしいなというのが一つございます。 【会長】 ありがとうございます。そういうことも是非、DXでできればいいなと思っているところです。はい、ほかによろしいでしょうか。 私が思うに、答申案の中に、B 委員が言うような、「防災」というところがやはり言葉的にいるのだろうと。僕もインフラの端の人間なので、防災の上で、DX・GXということが成り立つので、言葉として一言、「防災」という言葉を入れておいていただけるとよいかなと思いました。 あとは、もう皆さんの御意見のとおりで、これをどううまく説明するかというところで、絵にするということをまた御検討いただければと思ったところでございます。 ほかに何かお気づきの点がございますか。なかなかもうこれで言うチャンスがないかもしれませんが、よろしいでしょうか。 前途多難だとは思っております。いろいろと問題も多いですし、予算の話もありますし、そういう中で、ここは重点的に進めていただけると思っておりますが、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。 それでは、貴重な御意見や御感想をいただきました。ありがとうございました。答申案の取扱に関しては、今から三点、皆様にお諮りしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。まず一点目です。答申の取りまとめにつきましては、基本的には、本日の案をベースとして検討させていただきたいというのが一つ目でございます。また、字句や表現などの最終確認は、私と今村副会長に一任いただいて、事務局とよく相談をして、最終的に市長に答申書を提案する瞬間まで、必要に応じては修正を行って、答申案をまとめたいと思います。あと最後に、三点目ですが、市長への答申案に関しましては、協議会を代表するというかたちで、私と今村副会長とで、お伺いしたいと思っております。このかたちで進めてまいりたいと思いますが、皆様よろしいでしょうか。

	【委員】（意義なし） 【会長】 　はい、ありがとうございます。それでは、私と今村副会長の2人で、市長に答申させていただきたいと思います。よろしくお願いします。 　いろんな御意見等いただきまして・・・はい。御意見がございますか。どうぞ。 【H 委員】 　この計画のことが市報に掲載されるのは、4月1日号ですか。 【事務局】 　予定では、6月1日号です。 【H 委員】 　なるほど。随分先なのですね。やはり、市民が手にするのは、市報なので、ぜひ、読みたいと思うような、市報にしていただけるところまで、会長さん副会長さん、関わっていただけないでしょうか。 　先ほどの図面の書き方もそうなのですけど、縦書きでだらだら書いてあるのだと読めないし、分かりづらいし。せっかくなので、読みたい市報になって、将来を創造、妄想できるくらいの市報をお願いします。 【会長】 　はい、ありがとうございます。ぜひぜひそれは頑張りたいと思います。あまり知恵がありませんので、ぜひいろんなところでまた、皆さんの御意見等賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。 　この答申案をパワーポイントにまとめたいと思いますが、どういう絵を描けば1番いいのかな、悩ましいなと思っているところです。 　ほかに何か御意見等ございませんでしょうか。よろしいですか。なかなかもう言うチャンスがないかもしれませんけれども、よろしいでしょうか。 　はい。若干、時間的には余裕があるんですけども、それでは、今後の日程に関しまして、事務局から説明をお願いします。 【事務局】 　答申につきましては、先ほどございましたように、1月31日火曜日9時30分から、山口市役所の市長応接室におきまして、協議会を代表いたしまして、進士会長と今村副会長のお二人から、市長に直接、答申していただく予定としております。 　答申書の内容につきましては、本日いただきました御意見をもとに、会長、副会長、事務局で最終調整をさせていただきます。なお、皆様には最終調整いたしました答申

	書の写しを後日送付させていただきます。 　また、後期基本計画（案）につきましては、本日の御意見、そして、資料6の意見書でいただきました御意見を踏まえまして、修正等を行ってまいります。意見書の提出の時間が短く、申し訳ございませんが、2月1日水曜日までにお願いできればと考えております。事務局からは以上でございます。 【会長】 　はい。ありがとうございました。 　先ほど話がありました、先が見えない、どうするのかが見えないというようなことを、御意見等ありましたので、ぜひそれをフォローアップできるような仕組みというのは、大事だと思っておりますので、それもあわせて考えながら、皆様に、声かけながら、市にとっていいものにしたいなと思っていますので、よろしくお願いします。まずは、6月1日号の市報から始まるというかたちにしたいと思います。 　はい。それでは、誠にありがとうございました。自分としても、うまく出来たのかなという不安があったのですが、拙い司会進行で皆様におかれましては、御心配と御迷惑と、不安感を持たれたのではないかと思っております。何とかここまでまとめることが出来ましたので、本当に、ありがとうございました。これからも引き続きよろしくお願いしたいと思いますので、これで、私の挨拶とさせていただきまして、最後の閉会に移りたいと思います。 <u>5　閉会</u> 【会長】 　それでは、第9回山口市総合計画策定協議会を終了させていただきたいと思います。事務局に進行をお返しいたします。 【事務局】 　昨年の3月から本日まで、皆様、本当にありがとうございました。こうしたかたちで熱い議論が出来たと思っております。何よりも、私たちのこの事務局のスタッフのモチベーションが上がったと言いますか、とても勉強させていただいた1年間だったと思っております。進士会長、今村副会長を始め、皆様には、ありがとうございました。今日いただいた御意見は、しっかりとやってまいります。よろしくお願いいたします。 　協議会から答申書をいただきました後には、第二次山口総合計画後期基本計画の策定に向けて、反映させてまいります。 　それでは、本日の第9回山口総合計画策定協議会を終了させていただきます。 　皆様、本当にありがとうございました。

会議資料	・資料１　第９回山口市総合計画策定協議会　説明資料 ・資料２　第二次山口市総合計画　後期基本計画（案）概要版 ・資料３　答申案 ・資料４　委員名簿 ・資料５　配席図 ・資料６　意見書
問い合わせ先	総合政策部　企画経営課 TEL 083－934－2747